

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：17401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24760417

研究課題名(和文)朝市の量的・質的データによる類型化および地域資源に向けた魅力と課題の構造分析

研究課題名(英文) Quantitative And Data Qualitative Analysis of Morning Market for toward local revitalization

研究代表者

森本 剣太郎 (MORIMOTO, KENTARO)

熊本大学・沿岸域環境科学教育研究センター・特定事業研究員

研究者番号：10437915

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円、(間接経費) 300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、持続可能な魅力のある朝市について特性導き出しこれを一つの地域資源として活用することを最終目的として、アンケートやヒアリング調査による量的データを収集し、また現地調査を通して朝市の細かい特性を導く質的データを収集し、これを整理分析した2カ年の研究である。その結果、朝市の魅力キーワードを抽出し、朝市が持続的に地域活性化を担う考察した。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to reveal characteristics of sustainable and attractive morning market, and to be utilized as one of regional resource. We collected and analyzed quantitative data on quantitative and interviews and qualitative data on field research. Thus we examined the extraction the attractive keyword and consideration for local revitalization.

研究分野：工学

科研費の分科・細目：土木工学・土木計画学・交通工学

キーワード：朝市 地域活性化 地域資源 ヒアリング

1. 研究開始当初の背景

農山漁村地域は少子高齢化や若年層の流出により地域活力や賑わいが低下しており、特に漁村地域においては水産資源水準の低迷、漁業生産構造の脆弱などの課題が重なりより深刻で、早急な魅力ある地域振興策が望まれている。昨今、地産地消運動の活発化や食育への関心の高まりを背景として、朝市があちらこちらに開市されている。しかし、朝市は多数の出店者・生産者が集った集合体であり、その朝市の持続性や長期ビジョンなどについては不鮮明であることが多い。そこで本研究は、全国の朝市を定性・定量評価を行い、類型化を図り個々の朝市の位置付けを明確化する。次に類型化したグループの魅力や問題に及ぼす起因因子を抽出し、朝市の今後の存続や発展に向けた運営ビジョンを提示し、朝市の持続的な地域振興策の確立を目指す。

2. 研究の目的

本研究は、持続可能な魅力的ある朝市について特性導き出しこれを一つの地域資源として活用することを最終目的としている。そこで朝市の置かれている環境、歴史や営業形態などについて定性・定量の基礎情報を収集し、さらに類型化を図り個々の朝市の特性について明らかにする。また、特性や類型化した朝市グループの魅力や問題を抽出し、それぞれについて構造分析を行い問題の評価を行う。これによって、個々の朝市がどの系統に属し、その系統の朝市の魅力や課題を評価し、朝市の存続や発展に向けた運営計画を提案し、ひいては持続的な地域振興策の一つになりうると考える。

そこで本研究では、定量調査と定性調査により朝市の特性・類型化を通して、朝市の方向性を指南する方策を帝蚕する。そこで、郵送によるアンケート調査を実施し量的データを収集する、また現地調査を通して朝市の細かい特性を導く質的データを収集する。この一連の研究により、個々の朝市の位置付けと魅力と問題点のキーワードや起因要素を示し、今後の朝市の存続や発展へ提案する2カ年の研究課題である。

3. 研究の方法

研究を進めるにあたり、熊本県内で把握している朝市を対象として、事前調査を行った。その結果、朝市の組合・責任者等が明確でなく、場合によっては行政機関が責任を負うなど、アンケート、ヒアリングをする上で協力が得にくいことが判明した。そこで量的データ収集は、平成24年度においてこれまでの研究で協力を得た朝市などを対象に郵送調査やヒアリング調査を通して、データを得た。次に、質的データの収集は、五城目朝市(秋田県)、盛岡神子田朝市(宮城県)、八戸館鼻岸壁朝市(青森県)の3つの朝市を調査した。調査は、2012年3月20日~24日に

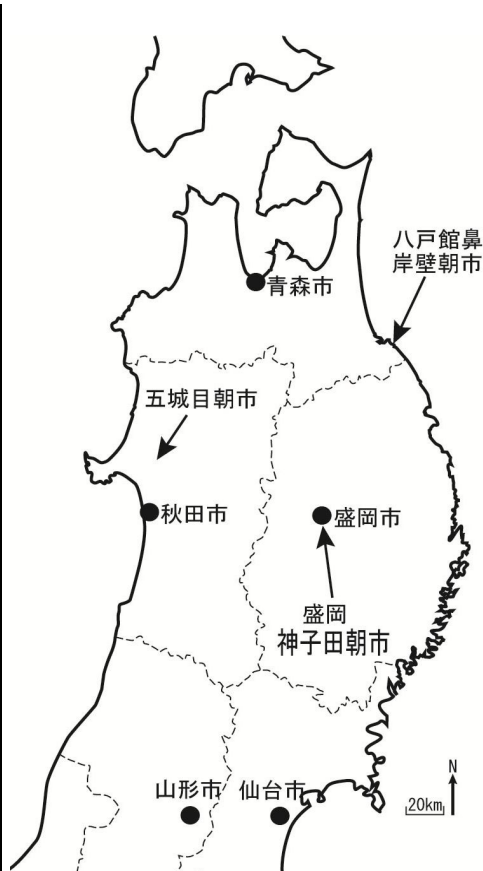


図 - 1 現地調査の対象朝市の位置

表 - 1 責任者への基本的質問事項

No.	質問内容	形式
1	朝市の組合員, 開市年とそのキッカケ	FA
2	朝市の理由, 開市日の決定	FA
3	会場の所有者および管理者, 休市時の利用方法	FA
4	出店の選考基準	FA
5	出店の参加料金	FA
6	開催告知方法, イベント内容	FA
7	開市の苦労, 工夫	FA

表 - 2 出店者への質問事項

No.	質問内容	形式
1	専門店	SA
2	性別	SA
3	年齢	SA
4	出店開始年	FA
5	経営人数	SA
6	朝市以外の店舗有無	SA
7	職業形態	SA
8	居住地	SA
9	来市交通手段	SA
10	来市交通所要時間	FA
11	雨天時の出店確認	SA
12	晴天時の出店頻度	SA
13	出店理由	FA
14	当朝市の長短所	FA
15	出店日のタイムスケジュール	FA
16	休店日のタイムスケジュール	FA
17	売上金額	FA

調査した。この3つの朝市は、隣接県であることから季節変動にともなう出品物の山菜・野菜・業界類に大きな差異がないことから選定した。元々、秋田県や青森・岩手県境は昭和までは朝市が多く立つ地域として知られており、特に五城目朝市は500年以上の歴史を数えており、開催日が2,5,7,10日が付く日にち、いわゆる十二斎市である。調査日は26店舗出店していたが、多い時では約50店舗以上が朝一通りに軒を並べる。盛岡市の神子田朝市は、1977年に生産者が直売する場所として現在地に120店舗余りに区切られた屋根付き常設施設が建った。開催日時は、月曜日を除く毎日5時～8時半であり、多くの市民が利用している。八戸館鼻岸壁朝市は、元来、朝市が八戸市のあちらこちら興っていた朝市文化に加え、朝早くから仕事する市民文化により、2004年に新たに興した朝市であり、その店舗数は300店以上を達する国内で最大店舗数の朝市である。2つの朝市と異なり冬季（1月から3月中旬）は閉市するも、開市期間の毎週日曜日の午前3時～9時には、1～6万人の来訪客で賑わう生活朝市である。また、東北3つの朝市以外の朝市についても調査実施し、質的データの分析に利用した。現地調査では、表-1～3に示す開催者、消費者、出店者へのアンケート調査を実施した。他にも、入込状況を確認のためのビデオ撮影、朝市店舗配置状況などを確認した。

4. 研究成果

平成24年度において量的データの収集・分析は、当初計画していた膨大なデータを集めず信頼の高いデータ集取に務めた。その結果、朝市は出店者の高齢化に伴う朝市衰退の朝市と、地域おこしの旗印として朝市が地域活性を担っている朝市の特徴があった。もちろん、これまでの成果にあったように観光型朝市、生活型朝市にも分けることが出来た。また朝市の魅力キーワードとして、朝市で魅力ある出品物、駐車場、他の地域資源の有無が朝市のにぎわいを決定しているようである。現地調査による質的データより、地域で長らく開催する朝市では、マンネリ化などの理由により朝市が衰退しつつある朝市は、出店者の高齢化、新規消費者が乏しい事情を抱えている一方、地域に根付いた期間は別にせよ消費者を満足させる出品物やサービスを抵抗する朝市ではにぎわいが高く地域活性化の一躍を担っていた。他にも、朝市の今後の運営に問題や関心を覚えていない朝市団体もあることも得た。

最後に、データの分析等が、当初計画よりやや遅れているため学会等への投稿は、今年度中に少なくとも1編を予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

表-3 消費者への質問事項

No.	質問内容	形式
1-1	専門店	SA
1-2	性別	SA
1-3	年齢	SA
1-4	出店開始年	FA
1-5	経営人数	SA
1-6	朝市以外の店舗有無	SA
1-7	職業形態	SA
1-8	居住地	SA
1-9	来市交通手段	SA
1-10	来市交通所要時間	FA
1-11	雨天時の出店確認	SA
1-12	晴天時の出店頻度	SA
2-1	出店理由	FA
2-2	当朝市の長短所	FA
2-3	出店日のタイムスケジュール	FA
2-4	休店日のタイムスケジュール	FA
2-5	売上金額	FA

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
全国朝市サミット
<http://gurutabi.gnavi.co.jp/special/news/asaichi.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者
森本 剣太郎 (KENTARO MORIMOTO)

研究者番号：10437915

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：